

大阪学芸では、学校が自ら学校運営を改善し、その教育水準の向上を図るとともに、適切に説明責任を果たして保護者の理解と参画を得て学校づくりを進めていくため、自己評価や学校関係者評価に加えて、第三者評価を導入することにより、学校評価全体の充実を図っていきたいと考えています。

1 大阪学芸「学校評価の体系」

大阪学芸では、「自己評価」、「学校関係者評価」及び学校運営に関する外部の専門家等による「第三者評価」からなる学校評価を実施します。

(1) 自己評価 「校内評価委員会(校務会)」

大阪学芸は、校長以下、教職員から構成される校内評価委員会(「校務会議」がその任を担う)を組織する。校内評価委員会は、年度当初に「部門別活動計画」を作成し、1年間の教育活動の目標数値を設定し、進捗状況を職員会議で報告し共通認識を図りながら年度末に達成状況を検証します。また、教職員による学校評価にとどまらず、生徒による「授業アンケート」・「学級経営評価アンケート」・「生活環境アンケート」保護者アンケート」「教職員アンケート」を実施し、本校の目標達成状況等を検証することを通して、学校の現状と課題を明らかにし、教育活動その他の学校運営の改善を図ります。

ア、学校評価の実施に当たるアンケート調査は、総務部と教務部が担当します。

イ、生徒による授業評価・学級経営評価については、その結果を教科担任・学級担任にフィードバックします。

ウ、新任教員については、上記評価表をもとに管理職面談を実施していきます。

エ、生活環境調査の結果は、学校評議委員会等にも報告し学校の自己評価にも活かしていきます。

(2) 学校関係者評価 「学校評議委員会」

大阪学芸は、生徒の保護者やその他の学校関係者等により構成される学校関係者評価委員会(「学校評議委員会」がその任を担う)を組織します。

学校関係者評価委員会は、校内評価委員会による自己評価等の結果を評価することを通して、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校・家庭が学校の現状と課題について共通理解と相互の連携を深め、学校運営の改善への協力を一層進めることを目的として評価を実施します。

ア、学校評議委員会は、学校の理事および現・元保護者により構成します。

イ、任期は、1年更新とする。

ウ、学校評議委員会は、年2回開催し、上記の学校自己評価を含めた学校の現況について意見交換を行います。

(3) 第三者評価 「学校協議会」

大阪学芸は、第三者評価を実施するため、学校運営に関する外部の専門家等による第三者評価者(「学校協議会」がその任を担う。)に調査を依頼する。第三者評価者は、各学校の自己評価及び学校関係者評価の結果を踏まえ、より専門的、客観的立場からの評価を行います。

ア、第三者評価委員会は、理事長・校長・法人事務局・第三者委員により構成します。

必要と認められた時は、教頭及び関係教職員を招集します。

イ、第三者委員の任期は、2年とし更新を認めます。

ウ、第三者委員に対する交通費は支給します。

2 中期学校経営方針等への反映

大阪学芸は、学校評価の結果を踏まえた改善策を策定し、「中期学校経営方針」及び「学校経営計画」に反映するよう努めます。

3 学校評価の結果の公表

大阪学芸は、実施した学校評価の結果及び改善策について、ホームページ等適切な方法を用いて公表します。

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学校像】

明治 36 年に創立された本校は、「豊かな人間性をはぐくみ、社会に貢献できる青年を育成する」という建学の精神のもとに明治 45 年には日本で初めて上級学校に進学できる夜間甲種商業学校を設置し向学の精神あふれる生徒のニーズに応えました。時代が変わっても子どもたちの希望に寄り添うという教育理念に基づき地域社会からの信頼と期待に高い水準で応えられる学園、生徒が何歳になっても誇りを持って語れる学園、生徒の満足を自らの喜びにできる教職員が集まる学園を創っていきます。

【生徒像】

「気づく心」「考える力」「チャレンジ精神」を教育の 3 本柱とし、すべての教育活動を通して、次のような生徒を育成します。

- 社会的規律を尊重し、豊かな情操を身につけた品位ある生徒
- お互いの人権を尊重し、学校や地域社会の中で協力・共同できる生徒
- 自主的、自律的な学習態度で学力の向上をめざし、異文化に触れることによって、21 世紀を担う若者にふさわしい国際的な視野を持った生徒

2 中期的目標

各部・各学年で「部門活動計画」(部門目標シート)を作成し、成果目標の数値化を行い、その目標を達成するための具体的な行動計画を立てます。4 月に目標設定、9 月と 1 月に進捗状況の報告、3 月に目標達成の結果と次年度への課題を明確化していきます。

1 生徒指導を根幹に据えた学習指導と生徒のニーズに応えられる進路指導をめざします。

(1) 基本的生活習慣の確立

学力向上の基盤は「基本的生活習慣」の確立なくしてあり得ない」という教育信念から「挨拶のできる生徒」「人の話を聴ける生徒」「ルールを守れる生徒」の育成に努め、生徒の自己管理能力を高めます。

ア、時間を守ることの大切さを意識させ、遅刻の大幅減少を目指します。

イ、いじめを許さず、生徒全員が安心して登校できる学校づくりを目指します。

ウ、校内外での服装の乱れをなくし、保護者から信頼される教育環境を作り出します。

エ、SNS やメールの使用上のマナーを含め、相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーションができるように全教科で指導します。

(2) 学力向上と進路実現

学力向上の基盤は、生徒の「自己管理能力の確立なくしてあり得ない」という教育信念から教科学習、講習等を通して自習の時間の使い方を学ばせるとともに生徒手帳を全面改訂しモジュール化された「学芸手帳」を作成し生活習慣を見直し時間の使い方を工夫させ短期・中期・長期と計画的に学習する習慣を定着させていきます。

保護者・生徒の信託に応え生徒が将来、自己実現できる希望進路の発見・実現に寄与するため教育課程を編成(選択授業での対応や多様な講習の実施)するとともに国際コースなどの既存のコースの充実、「看護コース」など新たなコースの創設などで生徒のニーズに応じていきます。

教員の授業力を高めていくため「生徒の授業アンケート」(年 2 回)を基に教職員間の相互授業参観や教科会の充実、管理職による教員面談(特に新任)等を実施し、授業内容の点検や教授法の改善に取り組みます。

ア、教科指導について生徒からの「信頼度」「学習効果への実感度」等を伸ばすために授業研究をすすめます。

イ、教科書を学ぶ学習姿勢から自ら課題を見つけ能動的に学ぶ習慣作りの一環として漢検・英検・数検などの資格試験受験者を増やしていきます。

ウ、生徒の多様なニーズに応えるために教育課程の編成、多様な講習の機会を設定し進路指導を充実させていきます。

エ、管理自習室・e-learning システム・駿台サテネット教室・校内予備校の活用を通して、自学自習しながら学ぶコツの具現化を図ります。

エ、ICT 教育を推進するために平成 27 年度導入の電子黒板を使った授業について研究を開始していきます。

(3) 社会に貢献できる資質の育成

学校教育の使命は「学力の向上だけではなく、社会性の育成にある」という教育信念から自己中心的な性格になりがちな現在の高校生に協調性や耐性を育成し、建学の精神にある社会に貢献できる人間を育成するための取り組みを教育活動全体を通して実施し自尊過剰を高めていきます。

ア、ボランティア活動やセレッソとのサホーティングマッチ、エコ活動、地域清掃活動を通して社会への関心を高めるとともに奉仕の精神を育成します。

イ、部活動を活性化させ、勝利をめざし努力する過程で持続力や耐性を養い、仲間と協力しあう姿勢(協調性)を育成します。

ウ、体育大会や文化祭等の行事を通して他者への思いやりや協調性、自分の意見をわかるように相手に伝える力(コミュニケーション能力)、プロジェクト力を育成します。

2 保護者に信頼される学校づくり

(1) 保護者への情報提供

公立小中学校と違い「校区という地域」を持たない高校は、保護者との連携をいかに図っていくかが大きな課題といえます。本校のホームページについても保護者に有益な情報発信をすると同時に生徒や保護者が知りたい情報発信となるように情報の質についても考えていきます。

ア、保護者の学校への信頼度(学力向上、いじめのない生活、担任との連携など)を高めていきます。

イ、学校からの情報発信力を高め、ホームページの閲覧者数を向上させ、開かれた学校づくりを通して保護者との信頼関係を深めます。

ウ、成績懇談や進路ガイダンスを充実し生徒の進路希望を担任が把握し、保護者の願いと子供の願いを調整する機能を学校が持つことにより信頼関係を築いていきます。

(2) 危機管理体制の確立

地球温暖化の影響から豪雨・巨大台風の上陸をはじめ、いつ来るかも知れない地震への対応を考え、生徒の安全を第一にした防災体制を構築していくことが求められています。このため、交通機関が遮断されたり、大和川の水位上昇で帰宅困難となった場合の対応を関係機関と連携し構築していきます。

ア、避難訓練を通して集団で避難するときの心得を育成し、災害に備えます。

イ、学校として帰宅難民となる生徒が出た時を想定した避難物資等の準備体制や保護者との連絡体制を整えていきます。

【自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

【自己診断の結果と分析】

1 基本的な生活習慣の確立

本校の生活指導は、「説得と納得」による指導、「指導を謙虚に受け止め深い理解を促す」「体罰や脅迫・理不尽な指導」を排しつつ、これまで以上に生徒が「自らを律する力をつけて社会で適用する人間になる」ことができるように厳しく、愛情をもって指導してきました。人を傷つけるいじめ行為(SNS への書き込みも含め)は「ゼロ」ではありませんが昨年度に比べると激減し、いじめる生徒への批判的雰囲気をもつ学級集団となってきました。ただ、クラブ内でいじめ事象があり、今後は生活指導部・学年・クラブ顧問の連携を図る反省点を共有することができました。当該クラブについては「クラブ改善計画」を作成させ、職員会議で共通理解し他のクラブでも再発せうしに役立射ました。一方、遅刻指導は数値目標達成はなりませんでしたが、今後は遅刻生徒・保護者との連携をさらに深めて、時間管理について考えさせ改善を図ります。規律を守らせる手段の一つとして服装などで違反事項があれば指導カードを発行してきましたが「カードを発行することが指導」という錯覚に陥り「説得と納得」につながないという反省点が出ました。また、学校の生活指導に対する肯定回答が80%を超えてはいますが数%の否定的回答にも目を向け、少数者の声も見逃さないため教職員間の相互連絡を密にしていきます。さらに発達障害の研修など違った側面からのアプローチも考えていくことが大切です。

2 学力向上と進路実現

教員の授業力の向上こそが生徒の学力を向上させるという観点から6月に新任教員を対象とした研究授業期間(3週間)、11月に全教員による相互授業参観期間(3週間)を実施しレポート提出を義務付け、互いの授業を見学し、コメントを書き、評価し合うという取り組みをおこないました。この結果、授業力については年々向上して来ていることが生徒授業評価アンケートの分析にもあらわれてきています。特に「この授業を受けて学力(技能)が伸びるという実感があつたか」というアンケートの回答は昨年度と比べても高い数値を出しています。

また、大学入試改革が始まる中で「英語の4技能」の育成のためにも英検の受験者を学校として上げていく取組を進めています。徐々に英検3級以上の資格を取る者が増えつつあります。

授業に対する総合評価では前回の7月実施の生徒アンケートと比較すると改善され、特に「学習効果」で平均1.5ポイント、到達率で5.2ポイントの上昇がありました。今後も授業改善を勧め進路保障につなげていきます。今後は、英検のみならず「漢字検定」「数学検定」の受験者を増やし能動的な学習への取り組みの必要性とこれらの資格が進路保障につながるという意識を啓発していきます。これらの取組を通して大学進学実績向上を図っていきます。

3 社会に貢献できる資質の向上

地域社会の中にありながら地域との接点が少ない私立高校は、積極的に生徒を地域に出す中で信頼関係を築くだけでなく生徒自身に社会との関わり大切さを教えていく使命を負っています。本校では有志によるボランティア活動を奨励していますが年々参加希望が増えています。地域清掃、サッカークラブ・セレッソ大阪とのボランティア活動、各種イベントでのボランティア活動を年々増やして行っています。また授業だけでなく協調性やコミュニケーション能力、プロジェクト力を伸ばすのに効果がある行事や部活動にも積極的に生徒は参加していますが、難点はクラブについては生徒数に比較して活動場所が限られるという点です。この解決のために個人競技の部活動を奨励しています。

4 信頼される学校づくり

私立高校に生徒を送る保護者の願いは安心な学校生活と学力保障、進路情報の提供です。生活面でも学習面でも特に問題はありますが、情報提供の面でまだ課題があります。ホームページの直帰率が目標数値に達していない点を考慮して、次年度にホームページの全面リニューアルを計画しています。また、防災・安全教育で自転車事故や多数の生徒を避難・誘導する困難さを抱え、地域・区役所との連携を模索しています。

【学校協議会からの意見】

毎年、7月と11月に実施されている生徒・保護者による「授業アンケート」「生活環境アンケート」などを見ても概ね生活指導面でも学習指導面でも学校と保護者の関係が良好に保たれていると判断することができます。

また、年々、増え続ける女子率を見ても生活指導面で困難を抱えていない学校であることが分かります。

1 学習面についての意見

○ ニューヨーク市立大学大学院センターのキャシー・デビットソン教授によると2011年にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学を卒業する時、「今はない職業」に就くことになると言っています。

ここから考えるとこれからの教育は単なる知識の詰め込みではなく「思考力」「判断力」「表現力」を磨いていくことが大切となります。学芸高校でもそのような授業展開となっていると思いますが、その点をさらに教育活動の中に入れて行っていただければと考えています。先生方に知識注入型の授業から思考力を伸ばす授業への転換をぜひお願いします。

○ 生徒が教師に抱えている好感度と学力は比例すると思います。アンケートを見る限り大半の先生は生徒から好感度を得ていることが理解できます。しかし、一部そうでない先生も否定的回答から見受けられます。教えるプロとして生徒に媚を売る必要はありませんが厳しさの中に温かさのある教師、難しいことを分かりやすく教えてくれる教師、おとなしい生徒にも声を掛けることのできる教師を目指してほしいと思います。

○ 必要なのは先生方の度量だと思います。変化球を投げってくる生徒に対応のできる教師になってください。

○ 各種アンケートの分析を見せてもらおうと「先生の身だしなみと学習効果が比例する」という統計があるようです。先生も一度、自分の身だしなみが生徒から好感の持てるものとなっているのかを点検してほしいと思います。

教師として生徒に指導していることを教師自身ができているのかという相互点検も必要ではないかと思います。

2 生活面についての意見

○ 「いじめ行為」をゼロにすることはできないかも知れませんが「いじめ行為を恥ずかしい行為」と捉える「学校世論」を作り出すように日々の取組を行ってほしいと思います。もちろん、根本にあるのは家庭教育です。

○ 服装違反・遅刻を学校が取り締まらなくてはならないこと自体がおかしいこと。家庭のしつけの問題。学校はもっと保護者に責任をとらすべき。

○ 子どもに「我慢をさせることのない社会風潮」の中で先生も指導が大変だと思います。でも、核家族の中でかつてあつた家族の教育機能(相互扶助・耐性・協調性)が失われていますが、集団の中で自分をいかに活かしていくのか、集団の中で気持ちをいかに周りに伝えていくのか、どのようにすれば相手に理解されるのか、人の話をどうやって聞き取ろうとするのかなどを教えられるのは学校しかないのですから頑張ってくださいと思います。

3 社会性についての意見

○ 社会性の第一歩は「あいさつと返事」です。学芸の生徒もクラブに入っている生徒はできているようですが、先生から率先して生徒に挨拶の声を掛けてあげてほしい。

○ 社会性の育成の観点から「礼儀作法」を教えることも考えてほしい。特に国際化が進む中で「和室」が私立高校にないのは残念です。日本文化である書道・茶道部など自国の文化を学ぶ機会も作って国際人を育ててほしい。

4 信頼される学校づくり

○ ホームページについてもスマートホン対応でなければならないと思います。また、デザインがもう一つという感想をよく聞きます。改善をお願いしたい。

○ 情報発信の質も高めてほしい。行事や活動記録だけでなく「校長・教職員」のいろんな方からの「意見欄」も作って発信してほしい。

○ 防災意識の向上の観点から高校生が災害の時に地域の避難されてきた老人やけが人を救助する立場にあるということを自覚させて救助法などの訓練を消防署との連携で進めていくことで生徒の中にボランティア精神が根付くのではないかと思う。自分を守る災害物資の保管では消極すぎると思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p style="text-align: center;">1 基本的な生活習慣の確立</p>	<p>1 規律ある学校生活の確立</p> <p>(1) 規範意識と自律性の育成</p> <p>(2) いじめを許さない学校づくり</p> <p>(3) 教員の生活指導力の向上</p> <p>以上の三項目を達成する中で学習環境を整え学力向上をめざします。</p>	<p>SNS やメールの利用上のマナーも含め、相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーション能力の育成をめざし、特にツイッター等の使用方法の間違いから「いじめ事象」に発展しないようにし、生徒全員が安心して登校できる学校づくりを目指します。このため、基本的摂勝習慣の乱れをなくし落ち着いた学校生活を確立するため次の点に焦点化した取組を行います。</p> <p>(1) 遅刻防止週間・服装違反撲滅週間等を定期的実施し、生徒の規範意識向上を図ります。</p> <p>○指導カードの発行による啓発</p> <p>(2) 記名・持ち帰り「いじめアンケート」を実施し、担任・学年主任・生活指導部・管理職による点検で共通認識を図りいじめを許さない学校づくりに専念します。</p> <p>○いじめ対策委員会の実施</p> <p>(3) 学級の係活動や清掃活動を協力して行う雰囲気を作り真面目な生徒が損をしない、担任に不信感を抱かない学級づくりを行います。</p> <p>○教室の環境整備</p> <p>(4) 学級経営についての研修を実施します。</p>	<p>(1) 規律ある学校生活を送らせるために各学年の一人あたりの遅刻回数を1年4.8(昨年)を3回、2年7.2(昨年)を5回、3年11.3(昨年)を5回に減らします。</p> <p>(2) いじめ防止対策法に基づき「差別やいじめがなく安心して登校できる」という保護者アンケートの項目を90%以上とします。</p> <p>(3) 保護者アンケートの「規範意識と自律性の育成に成果を上げている」を85%にします。</p> <p>(4) 学級経営アンケートの「校則違反生徒への毅然たる指導」を90%に引き上げます。</p> <p>(5) 教室の学習環境整備を80%以上とします。</p> <p>(6) 「規律ある雰囲気の中で生活している」という学級経営アンケートを85%とします。</p> <p>(7) SNS やメールについての対生徒の研修会を行います。</p>	<p>SNS 等への人を誹謗する書き込みは機会あるごとに学年集会等で指導した結果、指導事例が数件にまで激減した。次年度は0を目指します。</p> <p>(1) 規律ある生活習慣の根幹をなすのが「遅刻生徒0」ですが、1年3.7回、2年6.4回、3年8.1回と目標達成は出来なかった。しかし、学年の地道な取組により平成25年度の1人あたりの遅刻回数(1年4.8、2年7.2、3年11.3)と比較すると減少した。粘り強く保護者とも連携を行い指導するとともに進路指導面、学校保健面からの生活の立て直し支援も行います。</p> <p>(2) 年2回実施された「いじめアンケート」(記名・自宅持ち帰り)によると90%以上の生徒からいじめはないという回答を得た。生活環境アンケートでも92%の生徒から学校生活は安心できるという回答を得た。さらに、保護者からも96%の肯定回答を得たが4%の保護者が「どちらかという当てはまらない」と回答しているので善処していきたい。</p> <p>いじめ事象で生活指導部が対応した事例は1件。</p> <p>(3) 保護者アンケートで92%の保護者から肯定的な回答を得ています。</p> <p>(4) 学級経営アンケートをみても94%の生徒が他人は「注意すべき生徒」に対して毅然と指導し、85%の生徒が「この学校に入学してよかった」と回答している。しかし、一方で注意をしないと先生もいるので学校体制として歩調を合わせた指導体制を作って今必要性がある。</p> <p>(5) 「教室はいつも清潔で整理整頓されているか」という質問の肯定回答が62%と低くなっている。授業開始時、秀麗時の担任の指導が行き届いていない現象があり早急に改善を図る。</p> <p>(6) 84%の生徒が規律ある雰囲気の中で過ごしていると回答している。</p> <p>全体を通して概ね目標は達成できているが、肝心なことは少数とはいえ満足していない生徒の存在であり、次年度の課題もここにあると考えています。</p> <p>(7) SNS については保護者対象の研修会を外部講師を招いて行った。</p> <p>学級担任の経営力をたかめるため「学級経営 基礎の基礎」という冊子を配布し自己点検を促した。</p>
<p style="text-align: center;">2 学力向上と進路実現</p>	<p>2 学力向上と進路実現に向けた取り組み</p> <p>(1) 生徒による授業満足度の向上</p> <p>(2) 自学自習の態度を養成し意欲的に学習する姿勢を身につける。</p> <p>(3) 希望進路の発見と実現に寄与する。</p>	<p>本校の保護者の願いは、「4年制大学への進学実績」「学力と知力の育成」という結果が保護者アンケートから読み取れます。</p> <p>このためにも教師に望んでいるのは「きめ細かな学習・進路指導」となっています。</p> <p>この保護者の信託に応えるために次のような取組をおこないます。</p> <p>(1) 授業力の向上をめざし、相互授業参観、ベテラン教師による若年教師の指導を充実します。特に新任講師に対しては、授業参観・レポートを作成させ教科会を充実します。</p> <p>○早朝学習の意義の再確認</p>	<p>(1) 授業アンケートで授業への「信頼度」「効果」「やる気を引き出す学習指導」項目をいずれも80ポイント以上とします。その一環として相互授業参観と助言を年2回以上実施します。</p> <p>(2) 資格試験の受験・合格者増加を昨年度比で10%増とする。</p> <p>(3) 多様な進路希望に対応するために生活環境アンケートで「進路指導が充実し、希望進路の発見・実</p>	<p>(1) 学校全体の授業評価については年々、向上してきている。「信頼度」は83.7ポイント、「授業を受けて学習効果があったか」78.1ポイント、「やる気を引き出してくれたか」86%と「効果」面で目標達成となっていない。これは授業者により最高88.3と最低37.7と開きがあるためで個々の授業力の向上を組織的にはかつていく必要がある。このため、年2回の相互授業参観期間を設けた。</p> <p>(2) 1年英検3級受験者232、合格139名。準2級25名合格、2級1名合格と昨年度より受験者は大幅に増加した。2年でも3級以上の受験者が241名合格者91名となった。今後、英検受験者の増加を各学年でさらに促していく。漢検受験者も1年127名、2年251名と前年度に向けて増加した。</p> <p>(3) 「進路指導の充実度」については22%の生徒か</p>

		<p>○シラバスの作成と公開</p> <p>(1) 各種検定試験の受験率をアップさせ、学習意欲を喚起します。</p> <p>(2) 多様な進路希望に即した学習指導を充実します。</p> <p>○多様な講習の実施</p> <p>(3) 新任教員の授業力向上研修の実施します。</p> <p>(4) ICT 教育環境の整備に向けた研修活動を始めます。</p>	<p>験に気をしている」「進路希望に沿った教育課程編成」の項目を80%以上とします。</p> <p>(4)進路情報の提供に関するアンケート項目を70%以上とします。</p> <p>(5)管理自習室・サテネット教室の利用度を2割増しにします。</p> <p>(6)授業保障の観点から自習コマを759時間から500時間に減らします。</p> <p>(7)関関同立現役合格130名をめざします。</p> <p>(8)ICT教育で先進的な取組をしている学校の研究を行う。</p>	<p>ら否定的回答があった。保護者の満足度も81%と同じようになっている。「教育課程」については88%の保護者の満足度を得ている。</p> <p>(4)進路情報の体協については、83%の保護者から肯定回答を得ている。</p> <p>(5)自学自習を学習の柱としている本校の「管理自習室」の月平均利用実績は昨年度の31.7回に津対して今年度は33.0回と微増に終わっている。またもむさでネット室の利用も微増となっただけでさらに利用度数を増やすために教科担任・学年からも生徒への利用促進が必要となっている。</p> <p>(6)自習コマが770時間と目標の達成からはかけ離れた状況となった。原因の一つは休みの多い先生が一部おり、全体の数値を下げている点であり、該当教員への指導を重ねていく。</p> <p>(7)のべて合格率では100名を超えているが実数では下回っている。</p> <p>(8)ICT教育については、タブレット使用よりも大型電子黒板の利用がより教育効果が高いことが分かったのでその整備を始めた。</p>
3 社会に貢献できる資質の育成	<p>3 社会性の育成</p> <p>(1)部活動の活性化</p> <p>(2)ボランティア活動の充実</p> <p>(3)学校行事の充実</p>	<p>学校教育の目的は、学力の向上とともに集団の中で社会性をはぐくみ、協調性や耐性を育てることも大切な使命です。本校がすべてのコースで部活動を可能としている理由もここにありま。</p> <p>(1)進学校での部活動という観点から部活動と学習の両立を図ります。</p> <p>(2)ボランティア活動を通して社会に役立っているという自尊感情を高めます。</p> <p>(3)生徒の自主性を育てる学校行事を促進します。</p>	<p>(1)授業だけでなく行事や係の仕事に協力し合う協調性のある生徒の割合を80%とする。</p> <p>(2)ボランティア参加率を50%以上とします。</p> <p>(3)学校行事を通して生徒が成功体験を得ることができるように自治会活動を活性化します。</p>	<p>(1)89%の生徒が協調性をもって係の仕事や行事に取り組んでいる。保護者からも勉強だけでなく学校行事にも工夫がみられるという回答が89%となっている。</p> <p>(2)ボランティアの参加実績は各回で異なることが多いが全般に参加率が増えているが参加率は50%には至っていない。</p> <p>(3)体育大会や文化祭、スポーツイベント等は生徒からの評価も高く自治会を中心に運営されている。保護者からの満足度も高い。</p> <p>部活動については参加率は年々増加しているが生徒数に対して活動場所の制限があり、外部施設を借りたり、来年度に向けて体育館の新設などを計画し有効利用を図っている。</p> <p>全体として教科の授業だけでなくいろんな行事や部活動に参加する中で「失敗・挫折」を通して生徒たちは人間力を順調に育成している。</p>
3 信頼される学校づくり	<p>3 保護者との信頼関係の醸成</p> <p>(1)保護者と信頼関係の構築</p> <p>(2)進路保障への対応と情報の提供</p> <p>(3)防災教育への取り組み</p>	<p>高校は公立小中学校のように地域を校区として持たないために保護者への情報発信が信頼関係を築いていく上で大切な要素となっています。また、防災訓練等の安全生活に対する取組も緊急の課題であるという認識が必要です。</p> <p>(1)学習指導や担任への信頼感を高めます。</p> <p>○担任による進路のアドバイスと誠実な対応</p> <p>(2)保護者への情報提供を密にし開かれた学校づくりを行います。</p> <p>○ホームページ閲覧者数の向上</p> <p>○保護者アンケート回収率の向上</p> <p>(3)授業参観や保護者集会を充実し教員と保護者の距離感を縮め話しやすい環境づくりを行います。</p> <p>○成績懇談・進路懇談、進路ガイダンスの充実</p> <p>(4) 防災教育を充実します。</p>	<p>(1) 学習指導への信頼は進学校としての本校では最重要課題と言えます。保護者アンケートの学習への信頼度を80%以上にします。</p> <p>(2) 保護者アンケートの「ホームページの充実度」を80%以上とします。</p> <p>(3)保護者アンケートの「学校生活の安心度」を85%以上とします。</p> <p>(4)担任への信頼度(平等性・相談しやすい)を80%以上とします。</p> <p>(5)「進路希望に沿った教育課程編成」が編成され安心できる項目を80%にします。</p> <p>(6)帰宅難民等防災対応を充実し、保護者の安心</p>	<p>(1)「学習指導は充実しており学力向上に十分な成果を上げているか」の肯定回答が82%、(入学して良かったので知り合い・親戚に進めたい)の肯定回答が82%と高い評価となっている。</p> <p>(2)「ホームページが充実し、必要な情報が得られるか」の肯定回答が77%と目標値に達していない閲覧者数は20,501/月。アンケート回収率も81%と目標数値に達した。しかし、ホームページの直帰率(最初のページのみ閲覧して離れる率)の目標数値が16%であったが18.7%と目標に届かなかった。</p> <p>(3)「差別やいじめがなく安心してとこうできる」の肯定回答が87%だが「生徒指導の充実度」については76%にと泊まり課題があることが判明した。</p> <p>(4)「担任は相談しやすく誠実に対応してくれる」の肯定回答が89%と高く、生徒からも「相談しやすい」という肯定回答が85%高い評価を得ている。</p> <p>(5)進路指導に対する充実・満足度は教育課程面では81%、進路指導については82%の肯定回答を得ることができた。</p> <p>(6)大和川の氾濫の影響を受けやすく交通機関が遮断される可能性が高い本校では45%生徒が帰宅困</p>

			感を高めます。	難者となる。区役所との連携を深める（区役所・地域に学校の鍵を預け避難所としての機能を高めるなど）とともに次年度4月に各生徒に個人持ちの避難用品を準備し教室に保管することになっています。また、各種避難訓練を数回実施し、避難経路の確認、防災意識の向上を図っています。 ただ、2000名の生徒を一度に避難させる困難さや避難集合する地域の公園をどこにするかなど課題も多い。
--	--	--	---------	---

大阪学芸では、学校が自ら学校運営を改善し、その教育水準の向上を図るとともに、適切に説明責任を果たして保護者の理解と参画を得て学校づくりを進めていくため、自己評価や学校関係者評価に加えて、第三者評価を導入することにより、学校評価全体の充実を図っていきたいと考えています。

1 大阪学芸「学校評価の体系」

大阪学芸では、「自己評価」、「学校関係者評価」及び学校運営に関する外部の専門家等による「第三者評価」からなる学校評価を実施します。

(2) 自己評価 「校内評価委員会(校務会)」

大阪学芸は、校長以下、教職員から構成される校内評価委員会(「校務会議」がその任を担う)を組織する。校内評価委員会は、年度当初に「部門別活動計画」を作成し、1年間の教育活動の目標数値を設定し、進捗状況を職員会議で報告し共通認識を図りながら年度末に達成状況を検証します。また、教職員による学校評価にとどまらず、生徒による「授業アンケート」・「学級経営評価アンケート」・「生活環境アンケート」保護者アンケート」「教職員アンケート」を実施し、本校の目標達成状況等を検証することを通して、学校の現状と課題を明らかにし、教育活動その他の学校運営の改善を図ります。

ア、学校評価の実施に当たるアンケート調査は、総務部と教務部が担当します。

イ、生徒による授業評価・学級経営評価については、その結果を教科担任・学級担任にフィードバックします。

ウ、新任教員については、上記評価表をもとに管理職面談を実施していきます。

エ、生活環境調査の結果は、学校評議委員会等にも報告し学校の自己評価にも活かしていきます。

(2) 学校関係者評価 「学校評議委員会」

大阪学芸は、生徒の保護者やその他の学校関係者等により構成される学校関係者評価委員会(「学校評議委員会」がその任を担う)を組織します。

学校関係者評価委員会は、校内評価委員会による自己評価等の結果を評価することを通して、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校・家庭が学校の現状と課題について共通理解と相互の連携を深め、学校運営の改善への協力を一層進めることを目的として評価を実施します。

ア、学校評議委員会は、学校の理事および現・元保護者により構成します。

イ、任期は、1年更新とする。

ウ、学校評議委員会は、年2回開催し、上記の学校自己評価を含めた学校の現況について意見交換を行います。

(4) 第三者評価 「学校協議会」

大阪学芸は、第三者評価を実施するため、学校運営に関する外部の専門家等による第三者評価者(「学校協議会」がその任を担う。)に調査を依頼する。第三者評価者は、各学校の自己評価及び学校関係者評価の結果を踏まえ、より専門的、客観的立場からの評価を行います。

ア、第三者評価委員会は、理事長・校長・法人事務局・第三者委員により構成します。

必要と認められた時は、教頭及び関係教職員を招集します。

イ、第三者委員の任期は、2年とし更新を認めます。

ウ、第三者委員に対する交通費は支給します。

2 中期学校経営方針等への反映

大阪学芸は、学校評価の結果を踏まえた改善策を策定し、「中期学校経営方針」及び「学校経営計画」に反映するよう努めます。

3 学校評価の結果の公表

大阪学芸は、実施した学校評価の結果及び改善策について、ホームページ等適切な方法を用いて公表します。

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学校像】

「豊かな人間性をはぐくみ、社会に貢献できる青年を育成する」という建学の精神をもとに激動する社会の中で求められる 21 世紀型教育を推進し、獲得した知識を柔軟に活用する思考力、与えられた情報の中から課題を解決するための要素を読み取り整理し、分析し、その解決法を表現するという能力を持った生徒を育成し、いかなる変化にも対応できる人間を育成していきます。

【生徒像】

「気づく心」「考える力」「チャレンジ精神」を教育の 3 本柱とし、すべての教育活動を通して、次のような生徒を育成します。

- 社会的規律を尊重し、豊かな情操を身につけた品位ある生徒
- お互いの人権を尊重し、学校や地域社会の中で協力・共同できる生徒
- 自主的、自律的な学習態度で学力の向上をめざし、異文化に触れることによって、21 世紀を担う若者にふさわしい国際的な視野を持った生徒

2 中期的目標

各部・各学年で「基本的生活習慣の確立と大学進学実機の飛躍的向上」という重点目標達成を目指して「部門活動計画」（部門目標シート）を作成し、成果目標の数値化を行い、その目標を達成するための具体的な行動計画を立てます。4 月に目標設定、9 月と 1 月に進捗状況の報告、3 月に目標達成の結果と次年度への課題を明確化していきます。

1 生徒指導を根幹に据えた学習指導と生徒のニーズに応えられる進路指導をめざします。

(4) 基本的生活習慣の確立

学力向上の基盤は「基本的生活習慣」の確立なくしてあり得ない」という教育信念から昨年度に引き続き「挨拶のできる生徒」「人の話を聴ける生徒」「ルールを守る生徒」の育成に努め、生徒の自己管理能力を高めます。

ア、社会人としては許されない「遅刻」の防止に自ら努める自己管理能力を育成し時間を守ることの大切さを自覚させていきます。

イ、いじめを許さない「学級」「学年」「学校」文化を作り出し、生徒全員が安心して登校できる学校を目指します。

ウ、社会人として巣立つにふさわしい服装・マナーの向上に努め保護者から信頼される教育環境を作り出します。

エ、SNS やメールの使用上のマナーを含め、相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーションができるように指導します。

(2) 学力向上と進路実現

学力向上の基盤は、生徒の「自己管理能力の確立なくしてあり得ない」という教育信念から昨年度に引き続き、教科学習、講習等を通して自習の時間の使い方を学ばせるとともに 2 年目となる「学芸手帳」の利用を促進し生活習慣を見直し時間の使い方の工夫から短期・中期・長期と計画的に学習する習慣を定着させていきます。

保護者・生徒の願いである「4 年制大学進学」という目標を実現できるように進路ガイダンスを行い、希望進路の発見・実現に寄与するため教育課程を編成（選択授業での対応や多様な講習の実施）するとともに「電子黒板」を利用した研究授業用を行い授業改善に努めます。

教員の授業力を高めていくため「生徒の授業アンケート」（年 2 回）を基に教職員間の相互授業参観や教科会の充実、管理職による教員面談（特に新任）等を実施し、授業内容の点検や教授法の改善に取り組みます。

ア、授業力を向上させるための相互授業参観を行い「授業に対する信頼度」「学習効果への実感度」等を伸ばし生徒の満足度を高めます。

イ、自ら課題を見つけ能動的に学ぶ習慣作りの一環として漢検・英検・数検などの資格試験受験者を増やしていきます。

ウ、生徒の多様なニーズに応えるために教育課程の編成、多様な講習の機会を設定し進路指導を充実させていきます。

エ、管理自習室・e-learning システム・駿台サテネット教室・校内予備校の活用を通して、自学自習しながら学ぶコツの具現化を図ります。

オ、ICT 教育を推進するために平成 27 年度導入の電子黒板を使った公開授業を実施し、さらなる改善策を研究していきます。

(3) 社会に貢献できる資質の育成

21 世紀型教育で求められる「問題解決力」「コミュニケーション力」「プロジェクト力」「ICT 活用力」は授業の中だけでなく学校行事やクラブ活動等さまざまな体験学習の中で育まれる。このため、さらなる高みを目指す様々な活動を準備し、生徒に成功体験を積み重ねさせる中でこれらの力を育成していきます。

ア、ボランティア活動やセレッソとのサホーティングマッチ、エコ活動、地域清掃活動を通して社会への関心を高めるとともに奉仕の精神を育成します。

イ、部活動を活性化させ、勝利をめざし努力する過程で持続力や耐性を養い、仲間と協力しあう姿勢（協調性）を育成します。

ウ、体育大会や文化祭等の行事を通して他者への思いやりや協調性、自分の意見をわかるように相手に伝える力（コミュニケーション能力）、プロジェクト力を育成します。

2 保護者に信頼される学校づくり

(3) 保護者への情報提供

公立小中学校と違い「校区という地域」を持たない高校は、保護者との連携をいかに図っていくかが大きな課題といえます。本校のホームページについても保護者に有益な情報発信をすると同時に生徒や保護者が知りたい情報発信となるように情報の質についても考えていきます。

ウ、保護者の学校への信頼度（学力向上、いじめのない生活、担任との連携など）を高めていきます。

エ、学校からの情報発信力を高め、ホームページの閲覧者数を向上させ、開かれた学校づくりを通して保護者との信頼関係を深めます。

ウ、成績懇談や進路ガイダンスを充実し生徒の進路希望を担任が把握し、保護者の願いと子供の願いを調整する機能を学校が持つことにより信頼関係を築いていきます。

(4) 危機管理体制の確立

地球温暖化の影響から豪雨・巨大台風の上陸をはじめ、いつ来るかも知れない地震への対応を考え、生徒の安全を第一にした防災体制を構築していくことが求められています。このため、交通機関が遮断されたり、大和川の水位上昇で帰宅困難となった場合の対応を関係機関と連携し構築していきます。

ア、避難訓練を通して集団で避難するときの心得を育成し、災害に備えます。

イ、学校として帰宅難民となる生徒が出た時を想定した避難物資等の準備体制や保護者との連絡体制を整えていきます。

【自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

【自己診断の結果と分析】	【学校協議会からの意見】
--------------	--------------

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基本的 生活 習慣 の 確 立	<p>1 規律ある学校生活の確立</p> <p>(1) 規範意識と自律性の育成</p> <p>(2) いじめを許さない学校づくり</p> <p>(3) 教員の生活指導力の向上</p> <p>以上の三項目を達成する中で学習環境を整え学力向上をめざします。</p>	<p>SNS やメールの利用上のマナーも含め、相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーション能力の育成をめざし、特にツイッター等の使用方法の間違いから「いじめ事象」に発展しないようにし、生徒全員が安心して登校できる学校づくりを目指します。このため、基本的摂勝習慣の乱れをなくし落ち着いた学校生活を確立するため次の点に焦点化した取組を行います。</p> <p>(1) 遅刻防止週間・服装違反撲滅週間等を定期的実施し、生徒の規範意識向上を図ります。</p> <p>○指導カードの発行による啓発</p> <p>(2) 記名・持ち帰り「いじめアンケート」を実施し、担任・学年主任・生活指導部・管理職による点検で共通認識を図りいじめを許さない学校づくりに専念します。</p> <p>○いじめ対策委員会の実施</p> <p>(3) 学級の係活動や清掃活動を協力して行う雰囲気を作り真面目な生徒が損をしない、担任に不信感を抱かない学級づくりを行います。</p> <p>○教室の環境整備</p> <p>(4) 学級経営についての研修を実施します。</p>		
2 学 力 向 上 と 進 路 実 現	<p>2 学力向上と進路実現に向けた取り組み</p> <p>(1) 生徒による授業満足度の向上</p> <p>(2) 自学自習の態度を養成し意欲的に学習する姿勢を身に着ける。</p> <p>(3) 希望進路の発見と実現に寄与する。</p>	<p>本校の保護者の願いは、「4年制大学への進学実績」「学力と知力の育成」という結果が保護者アンケートから読み取れます。</p> <p>このためにも教師に望んでいるのは「きめ細かな学習・進路指導」となっています。</p> <p>この保護者の信託に応えるために次のような取組をおこないます。</p> <p>(1) 授業力の向上をめざし、相互授業参観、ベテラン教師による若年教師の指導を充実します。特に新任講師に対しては、授業参観・レポートを作成させ教科会を充実します。</p> <p>○早朝学習の意義の再確認</p> <p>○シラバスの作成と公開</p> <p>(2) 各種検定試験の受験率をアップさせ、学習意欲を喚起します。</p> <p>(5) 多様な進路希望に即した学習指導を充実します。</p> <p>○多様な講習の実施</p> <p>(6) 新任教員の授業力向上研修の</p>		

		<p>実施します。</p> <p>(4) ICT 教育環境の整備に向けた研修活動を始めます。</p>		
<p>3 社会に貢献できる資質の育成</p>	<p>3 社会性の育成</p> <p>(1)部活動の活性化</p> <p>(2)ボランティア活動の充実</p> <p>(3)学校行事の充実</p>	<p>学校教育の目的は、学力の向上とともに集団の中で社会性をはぐくみ、協調性や耐性を育てることも大切な使命です。本校がすべてのコースで部活動を可能としている理由もここにあります。</p> <p>(1)進学校での部活動という観点から部活動と学習の両立を図ります。</p> <p>(2)ボランティア活動を通して社会に役立っているという自尊感情を高めます。</p> <p>(3)生徒の自主性を育てる学校行事を促進します。</p>		
<p>3 信頼される学校づくり</p>	<p>3 保護者との信頼関係の醸成</p> <p>(1)保護者と信頼関係の構築</p> <p>(2)進路保障への対応と情報の提供</p> <p>(3)防災教育への取り組み</p>	<p>高校は公立小中学校のように地域を校区として持たないために保護者への情報発信が信頼関係を築いていく上で大切な要素となっています。また、防災訓練等の安全生活に対する取組も緊急の課題であるという認識が必要です。</p> <p>(1)学習指導や担任への信頼感を高めます。</p> <p>○担任による進路のアドバイスと誠実な対応</p> <p>(2)保護者への情報提供を密にし開かれた学校づくりを行います。</p> <p>○ホームページ閲覧者数の向上</p> <p>○保護者アンケート回収率の向上</p> <p>(3)授業参観や保護者集会を充実し教員と保護者の距離感を縮め話しやすい環境づくりを行います。</p> <p>○成績懇談・進路懇談、進路ガイダンスの充実</p> <p>(4) 防災教育を充実します。</p>		